

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大和リビング株式会社D-roof	階数	地上5F
建設地	愛知県春日井市八幡町1番3	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	90 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2016年11月29日
敷地面積	1,662 m <sup>2</sup>	作成者	小林重充
建築面積	480 m <sup>2</sup>	確認日	2016年11月30日
延床面積	2,318 m <sup>2</sup>	確認者	加田光

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算: 30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆☆☆ 100%超:☆☆

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$  × 100

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$  × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数				
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.0</b>	
<b>Q1 室内環境</b>					0.40	-	-	<b>3.0</b>	
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	
1.1 騒音				3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				-	-	-	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.4</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.9</b>	
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.71	<b>3.0</b>	0.71		
1 室温				3.0	0.63	3.0	0.63		
2 外皮性能				3.0	0.38	3.0	0.38		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.29	<b>3.0</b>	0.29		
2.3 空調方式				-	-	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.35		
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	0.50		
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.35		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	-	-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.29		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.6</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.3</b>	
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質				4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.40	<b>2.3</b>	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				-	-	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-	<b>3.6</b>	
<b>1 機能性</b>				<b>3.0</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00	<b>4.1</b>	
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応			カテゴリ5の配線によるギガビット対応	-	-	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画		独自		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40		
1 広さ感・景観				-	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.31	-	-	<b>3.0</b>	
2.1 耐震・免震				<b>3.0</b>	0.48	-	-		
1 耐震性				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.3</b>	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				5.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		②	タイル貼 40年 ビニールクロス 20年	4.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.23	-	-		
2.4 信頼性				<b>2.6</b>	0.19	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備		②		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>2.5</b>	0.29	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.5</b>	
3.1 空間のゆとり				-	-	<b>4.2</b>	0.50		
1 階高のゆとり				-	-	5.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ				-	-	3.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50		
3.3 設備の更新性				<b>2.5</b>	1.00	-	-		
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17	-	-		
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-		
3 電気配線の更新性				1.0	0.11	-	-		
4 通信配線の更新性				1.0	0.11	-	-		
5 設備機器の更新性				3.0	0.22	-	-		
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22	-	-		

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	3.2
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=		3.0	0.40		-	3.0
2 自然エネルギー利用				2.0	0.20		-	2.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>				5.0	0.40		-	5.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)					-		-	
集合住宅の評価(3c)			高効率の設備採用	5.0	1.00		-	
<b>4 効率的運用</b>				3.0	-		-	3.0
集合住宅以外の評価					-		-	
4.1 モニタリング					-		-	
4.2 運用管理体制					-		-	
集合住宅の評価				3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	2.9
<b>1 水資源保護</b>				3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水			節水型便器の採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00		-	
2			雑排水等利用システム導入の有無		-		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				2.8	0.63		-	2.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-		1.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		PB+LGSによる	4.0	0.25		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68		-	
1			消火剤	-	-		-	
2			発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50		-	
3			冷媒	3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値:69%	4.2	0.33		-	4.2
<b>2 地域環境への配慮</b>				2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25		-	
1		独自	雨水排水負荷低減	3.0	0.25		-	
2		独自	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25		-	
3		独自	交通負荷抑制	3.0	0.25		-	
4			廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1		独自	騒音	3.0	0.33		-	
2		独自	振動	3.0	0.33		-	
3			悪臭	3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-	
1			風害の抑制	3.0	0.70		-	
2			砂塵の抑制		-		-	
3			日照障害の抑制	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70		-	
2			昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30		-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

(仮称)大和リビング株式会社D-room勝川 新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.2</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:0.7%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)大和リビング株式会社

計画上の配慮事項	
総合	防犯面、環境面に配慮した作りとなっている
Q1 室内環境	F☆☆☆☆を使用し、汚染物質発生に配慮している
Q2 サービス性能	ギガビット対応のLANとなっている
Q3 室外環境(敷地内)	防犯カメラを設置し、防犯性に配慮している
LR1 エネルギー	日本住宅性能基準の等級3相当取れています
LR2 資源・マテリアル	ODP=0.01未満の断熱材を使用し、環境に配慮している
LR3 敷地外環境	適切な量の駐輪・駐車スペースを設置している
その他	なし